



勝浦ロータリークラブ 50期 THE WEEKLY REPORTS

2012 - 2013年度

No. 21 / Total 2353
例会：2013年1月25日
発行：2013年2月1日

RI 会長	田中 作次
第2790地区ガバナー	得居 仁
第5分区ガバナー補佐	古市 一雄
第5分区幹事	島田 誠一
第2790地区地区委員 ロータリー財団委員会	
勝浦RC	関 一憲
新世代奉仕委員会	
鴨川RC	羽鳥 鋭一
勝浦ロータリークラブ	
会 長	古川 範男
幹 事	中村 満
クラブ会報委員長	小林 悠紀
副委員長	渡邊 ヒロ子
委 員	渡邊 昌俊
	関 一憲

- ◆1月25日(金)のプログラム
公式訪問例会
得居仁ガバナー公式訪問・歓迎会
クラブ協議会

◆今後の例会予定

2月【世界理解月間】

- ・2月 1日(金) ゲスト卓話
曹洞宗 大峰山慈雲寺住職
野口宗雄氏
「商工業者の間に広まった仏教」
- ・2月 8日(金) ゲスト卓話
元日経新聞常務 和田昌親氏
- ・2月15日(金) ゲスト卓話
勝浦市議会議員 土屋元氏
- ・2月19日(火) 鴨川RC IM
会場：鴨川館 13:30点鐘
- ・2月22日(金) IMに振替

●会長挨拶 古川範男会長



今日は第2790地区の得居仁ガバナーが、公式訪問ということで列席されています。いささか緊張しております。こういう場に相応しい話題をと思いついた知恵を絞って、考えました。会長を拝命して以降これまでに、いろいろお話させて頂きましたが、バロック音楽の通奏低音の如く、底を流れるテーマは「人間として、良き生活者として、よりよく生きる」ために資する内容ということで参りました。今回は、よりストレートな内容かも知れません。

お手元に資料を1枚配っておりますが、ビートルズの歌のタイトル「Let It Be」が今日のテーマです。御存じの方も多いと思いますが、歌詞は以下の通りです。

When I find myself in times of trouble	私が悩んでいると
Mother Mary comes to me	マリア様が現れて
Speaking words of wisdom	賢い言葉をおっしゃる
“Let It Be”	「あるがままでいいのよ」と
.....	

これはビートルズのグループとしての最後の曲です。作詞作曲のポール・マッカートニーは当時グループ解散の危機などで非常に悩んでいたのですが、ある時亡くなった母親の Mary (あるいは聖母マリア) が現れて、こう言ったというのです。私はあまり彼らの曲を聴いたり、歌ったりはしませんが、この詩を見た(聴いた)時、涙が出るほどに感動しました。「あるがままでいい」。なんと素晴らしい言葉でしょうか。

彼らはヨーガや禅の勉強もしましたから、こういう境地に到達できたのかも知れませんが、この考え方は仏教、禅の神髄でもあります。自分とは何か。歴史の中で、宇宙の中で、自分はどのような位置を占めているのか。これを明らかにすると、^{おの}自ずから宇宙の真理、自然の摂理が見えてきます。150億年前にビッグバンで宇宙が誕生して以来の歴史。逆に言えば、元は宇宙のチリでしかない自分。自分も他人もないのです。皆同じ。端的に言えば、これが「あるがまま」の姿ではないでしょうか。

無理をする必要はないのです。自分の才能外で頑張っちゃいけない

のです。才能に磨きをかけることは必要でしょうが。

以前サッカーの名選手が引退する時に「自分探しの旅に出る」と言ったことがあります。いくら探しても自分なんてないんです。むしろ「自分(我)を消す旅」と言った方が妥当でしょう。

文豪・芥川龍之介は、スタイルを非常に気にする人で、1行書くのにも何日も費やすということがあったそうです。それを見兼ねた詩人の佐藤春夫が「芥川君、いい加減にその窮屈な上着を脱いだらどうかね」と忠告したそうですが、届かなかったようです。やがて芥川は自殺をしてしまいました。無理をするとこうなります。

翻って、ロータリーの遺伝子である「超我の奉仕」。この「超えるべき我」とは何か。これも同じです。「あるがまま」の自分を離れて人間道に外れる我欲を追求したり、我利我利亡者になることから解放されよということでしょう。そうして初めてロータリアンらしい生き方ができる。

禅における「心身脱落」も同様の趣旨です。自分を明らめた時には、心も体も無い。一体です。宇宙の真理、自然の摂理に沿った生き方ができるわけです。是非皆さんには「Let It Be」な生き方をしたいと願っております。

●幹事報告 中村満幹事

1. クラブ協議会後、臨時理事会があります。

●交換学生フィリップ君の近況報告スピーチ



書道コンテストで金賞を受賞したフィリップ君。

●委員会報告

◆米山記念奨学会委員会 村石愛二委員

先週お休みだった方もいらっしゃると思いますので、今週も特別寄付のエントリーを回させていただきます。

◆国際奉仕委員会 千葉正徳委員

齋藤麻利奈さんに誕生日のメッセージを送ったところ、「インフルエンザにかからない様に気を付けて下さい」

というほろっとくる様なメッセージが来ました。

◆職業奉仕委員会 渡邊ヒロ子委員長

料理教室の資料をお配りしておりますので御目通し下さい。本日まで受け付けしますようお願い致します。

◆会員増強委員会 高梨薫敏委員長

今井一徳氏、磯野武氏が入会の意向を示してくれました。臨時理事会で御承認頂ければありがたいと思います。

◆親睦活動委員会 手塚明宏委員長

得居ガバナーと古市ガバナー補佐より、会費を頂戴しております事をここに御報告致します。

●本日発行の「広報かつら」に掲載されました。



●国際ロータリー第2790地区

ガバナー 得居 仁 氏 卓話



松戸東ロータリー・クラブ得居仁でございます。国際ロータリー第2790地区ガバナーとして、勝浦ロータリー・クラブに公式訪問ができますことを大変光栄に存じております。

先刻行われました会長・幹事懇談会におきまして、勝浦ロータリー・クラブの現状とこれからの展望、課題などについて、率直な意見交換をいたしました。勝浦ロータリー・クラブの日頃の奉仕活動に深甚なる敬意を表する次第であります。どうぞ今後とも、クラブ発展のため、更に一層のご研鑽、ご尽力下さることを期待いたします。

30年ぶり、日本から3人目である、埼玉県八潮ロータリー・クラブ2012-13年度田中作次国際ロータリー会長の今年度のテーマは「奉仕を通じて平和を」

であります。

田中会長は、ロータリーは、国や民族間の友情と寛容を推進することで、互いに理解し合う最も伝統的な意味での「平和」の後押しをすることが出来るとして、世界3都市での「ロータリー世界平和フォーラム」の開催を決定されました。2013年5月17、18日両日の「平和はあなたから始まる」をサブタイトルとする広島大会に、日本34地区それぞれから、最大20名のロータリアンと10名の新世代の参加が要請されております。

また田中会長は、ロータリアンは、自分よりも他のひとのニーズを重視する、「超我の奉仕」というロータリーの標語は、自分だけではなく、社会全体のためを考えよと教えてくれる言葉であり、「超我の奉仕」を実践することにより、私たちは、「平和」すなわち「心の平安や家族の幸せ、満足感」「人間の基本的なニーズが満たされた安全な状態」を実現することが出来る、とされておられます。

田中会長から地区ガバナーに対して、①「ロータリー世界平和フォーラム」推進、参加に加えて、②ロータリー戦略計画3つの優先項目である「クラブのサポートと強化」「人道的奉仕の重点化と増加」「公共イメージと認知度の向上」に力を注ぐこと、及び③「奉仕を通じての平和」の精神をもって、ロータリーの究極の目的である平和な世界に向けて邁進すること、の3点の要望がなされています。

さて、これより私の今年度ロータリーの取り組み方とロータリー観を申し述べたいと存じます。

RI定款と皆様のクラブ定款のそれぞれ第4条に規定されております「綱領」は、大綱で、つなぎ、まとめられた最も重要なものであることを意味する言葉であり、また同時に、国家に譬えれば憲法に匹敵する性格を有する基本的且つ重要なものであります。私たちロータリアンがロータリーの目的、目標とするに留まらず、これを守り通し、守り続けて行かなければならないものなのであります。

「ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し」と宣言しています。

「ロータリーの目的は、奉仕という基本理念の上に立って事業が行われるようにすることにある」というの

ですから、ロータリーの目標は唯一つ、職業奉仕の推進以外にはなく、これに尽きるのであります。

ロータリーは、職業奉仕の推進を目的とする実践的倫理運動であり、職業奉仕を中心とし、そこから、新たに加わった新世代を含む4部門の奉仕の輪が広がり、それを結んだ輪の上に関連した諸活動が円形に広がって回転しているのが基本構造である、と私は考えています。

地区ガバナーは、地区内クラブに対する指導と監督を行うことで、ロータリーの綱領を推進する任務を課せられております。今年度私は、クラブ活動計画書掲載のご挨拶「利己と利他との調和」にもありますように、地区内のクラブに以下の9項目の要望をいたしております。

1. 職業奉仕の更なる推進を図ること。
2. 職業奉仕理念の理解を深め、職業奉仕の実践を極めていくことを目指して、クラブに研修委員会を設け、或は研修を担当する委員会を定めて、クラブ会員の研修を重ねること。その効果により、高潔であり、品格・徳性を備え、地域社会で尊敬されるロータリアンを数多く生み出し、「クラブのサポートと強化」並びに「ロータリーの公共イメージと認知度の向上」を果たすこと。
3. 新世代奉仕活動をRIプログラムのみに限定せず、地域社会、国家、民族、ひいては地球の未来を担う新世代の若者の健全育成を図るための、社会奉仕委員会とのクロス・プロモーションによる奉仕活動を実施し、「人道的奉仕の重点化と増加」に資すること。
4. 異なるものが提携することにより、それぞれの活性化を生み出します。委員会の垣根を取り払って協同で活動する委員会クロス・プロモーション活動を実施することにより、「奉仕を通じての平和」の精神を以て平和な世界に向けて邁進すること。
5. これまでの奉仕活動が前年踏襲だけで行われていないかを検証し、新たな発想で奉仕活動の展開を図ること。
6. 例会の意味を改めて問い直しして、自己研鑽を重ねつつ、親睦の醸成を図り、その親睦の歯車

の回転エネルギーをロータリーの奉仕に伝えることが出来るような例会とすること。

7. 各クラブ会員純増1名の実現に力を尽くすこと。

8. 「職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう」のテーマの下に開催されるロータリー情報研究会とこれに先立つクラブ職業奉仕委員長セミナーを効果あらしめるための全面的な協力を実施すること。

9. 広島で開催されるロータリー世界平和フォーラムの推進と参加への協力を図ること。

先般地区内各クラブに、クラブ会員研修の教材として頂きたく、冊子「忘筌」を3冊ずつお送りいたしました。

「ロータリーの基盤は職業奉仕であり」、「ロータリアンの責務は、事業と私生活において、高い道徳的水準を持ち続けること」、「ロータリーとは、異業種ながら志を同じくする職業人の集まりで、個々に清純で温かな心で地域社会に奉仕の手を差し伸べること」「ロータリーが職業奉仕を失えば、単なる社会奉仕団体に成り下がる」と述べられた 2009-10 年度ジョン・ケニー会長と同様に、田中会長も、「事業を成功させるには、顧客の満足を追求する以外にないという結論に達しました。顧客に喜んでもらえれば、事業も成長します。そうすれば私自身も幸せになれる。しかし、それは事業が成功しているからだけではなく、人を幸せにしてあげることができたという認識があるからです。」として、折に触れて職業奉仕の大切さを説いておられます。

「Community Service の主体をクラブに置き、社会一般がロータリーに要望する社会福祉事業も実践すべし」とする行動派と、「ロータリーは会員個人の職業を通じて、事業上の啓蒙思想の活動に置くべき」とする理論派との間の議論の激突により、今にも分裂しかねない重大な危機を迎えたロータリーは、1923年セントルイス大会において決議23-34を成立させました。決議の時点において、4大奉仕(現5大奉仕)に分化する奉仕概念は未だ成立していませんでしたし、また決議前文において、「ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、及び社会生活に

奉仕の理想を適用することを奨励、育成することが Community Service (社会奉仕) である」としていることからしても、決議23-34は現在の「社会奉仕」だけに限定して適用されるべきものではなく、「(広く全ての) 奉仕の実践に関する決議」であるというべきであります。

決議23-34は、「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は、奉仕—『超我の奉仕』の哲学であり、これは『最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』という実践的な倫理原則に基づくものである。」と宣言しています。

無限に増殖していく人間の本能である欲望に手綱をつけて、「欲望を自己制御」することが、「利己と利他との調和」を図るロータリーの「超我の奉仕」の「人生哲学」、即ち心構えであり、「利己と利他との調和」こそが、人と人との間柄、職業人・実業人とその相手方との関係を律する実践的倫理基準、即ち行動規範の偉大な原理であります。

私たちロータリアンは、例会において、親睦を通じて、心を磨き、自己研鑽に励みます。また道徳心を高揚させて、自らの徳性と品格を高め、更に自己研鑽のエネルギーを奉仕の心として、それぞれがそれぞれの職業の質、職業倫理の向上を諮るのです。ロータリーの実践的倫理基準「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる。He profits most who serves best.」に依拠して、「利己と利他との調和」という最高善を求め続けること、それがロータリーなのだ、私は考えています。

終りに当り、勝浦ロータリー・クラブのますますのご発展と、会員皆様のご健勝を祈念いたしまして公式訪問のご挨拶といたします。

●公式訪問の後、クラブ協議会を行いました。

出席報告 1月25日(金)

出席委員会 前田安彦委員長

会員	出席	MU	欠席	出席率
35名	28名	4名	3名	91.42%